

志賀重昂 シガシガ 地理學者。文久二年十一月十五日二河國生れ。昭和二年四月と六百奴(二六二一九七)。幼名綠藏。號知川、筆名昂、知川漁長、知川生、知川生昂。明治十四年札幌農學校卒。十九年南洋歴訪、二十一年ニ宅雪嶺等と政教社を興し、雜誌「日本人」を創刊して國粹保存を鼓吹。二十七年「日本風景論」を出版、日本の近代登山に影響多大。二十五年衆議院議員(當選二回)、二十七年日露戦争での旅順攻圍を觀戰。その後インド、アラビヤ、歐米諸國を二度視察。「志賀重昂全集」全八卷(昭和二年一四年刊)がある。

著書、(西村大囚居七著)「奴隷世界」(志賀知川名、瀧川君山共評、明治二十一年四月、千八百有文堂)、南洋時事「訂正四版、明治二十四年一月、千七百丸善尚社書店)、小笠原「合著・政教社同人編、明治二十九年十月、千七百政教社)、山水「叢書、河及湖澤」(明治二十年一月、千五百有文堂、政教社)、菅野太郎著「日歐交通起源史(歐羅巴人の初來)」(批評、明治二十年十一月、千二百裏垂書房)、十五名家語録「(合著・平田晉仙撰、明治二十一年十月、千二百平田勝馬刊、鐵華書院)、内外地理學講義「(西遠教育會等筆記、明治二十二年一月、千二百靜岡・谷島書店)、少年訓・第ニ集「(合著・山縣梯

二郎編、明治二十二年十月五日内外出版協會「少年園叢書」)、日本風景論「(増訂十五版・明治二十八年八月十日又武堂、博文館東京堂發兌)、叡山講演集「(合著・小池信美編、

明治四十年十一月十日大阪・大阪朝



『新新聞社』、『大阪毎日』『北陸講演集』(合著、明治四十一年十一月二十五日大阪・大阪毎日新聞社)、『むらさき』(志賀別川名、合著、大河鯉洋・樋口龍政編、明治四十一年一月五日日高有倫堂)、『世界山水圖說』(五版・明治四十四年十月二十日地理調査會、富山房)、『旅順攻圍軍』(明治四十五年二月一日地理調査會假事務所、東京堂博文館發兌)、『學術講演錄・第二編』(合著・大日本文明協會編、大正五年二月十五日大日本文明協會事務所)、『國民世界當代地理』(大正七年七月五日自刊、金尾文淵堂發賣)、『國民世界當代地理』(大正十一年度後半期)(大正十一年六月二十五日自刊、金尾文淵堂)、『波斯より土耳其まで』(合著、大正十五年八月十五日文明協會)、『國民世界當代地理』(昭和二年二月二十五日自刊)、『通俗講話・第一卷』(合著・日本放送協會關東支部編、昭和二年八月十五日日本ラヂオ協會、復本書房發賣「ラヂオ講演」)、『日本風景論』(小島篤水解説、昭和十一年一月十五日岩波書店「岩波文庫」)等。